

●向日市役所(〒617-8665 京都府向日市寺戸町中野20)

●編集 秘書広報課

●電話 075(931)1111

子ども議会の開催について

3年前の夏休みに開催された「子ども国会」の向日市版、子ども市議会を向日市でも企画してください。国会のあと、他都市でも開催されています。

小学校高学年から中学生が参加して、自分達の希望や生の声を出せる機会がもっとあっていいのではないのでしょうか。

(向日町 40歳代女性)

今日、子どもたちに生活や自然などの体験活動や体験学習の機会を豊かにすることが、極めて重要な課題となっています。平成14年度から実施される次期学習指導要領においても、一層体験的学習や問題解決学習に取り組むようにしています。

子ども議会につきましては、向日市の子どもたちが市政を体験的に学習するよい方策の一つと考えています。

向日市でも、過去4回にわたり「子ども議会」や「子どもたちと市長の意見交換会」などを開催した経緯もあり、今後、ご提案の趣旨も踏まえ、学校長など学校関係者と協議をし、検討してまいります。

ふれあい通信(市長への手紙)

市民との対話を図る

市民FAX通信(市民の声)

より開かれた市政を進めるために、昨年9月から始まったふれあい通信(市長への手紙)と市民FAX通信(市民の声)に、多くの市民の皆さんのご意見やご提言などが寄せられました。

今回は、そのいくつかの内容とその回答要旨を紹介いたします。



ふれあい通信と市民FAX通信は、手紙やファックスで市政に対するご意見やご提言をいただき、これからの市の施策等に反映させるため、昨年9月から始めたもので、これまでに75件の通信が届きました。

今年度のテーマは、「21世紀の夢ある事業」と「21世紀の地域づくり」の二つを設定しましたが、テーマにそったご提言や市政に対する様々なご意見、また市民の身近な問題など多くが寄せられました。今後市では、ふれあい通信などの市民の皆さんの対話事業を充実発展させていきます。

なお、FAX通信は、随時受付をしておりますので、ご意見をお聞かせください。

お問い合わせ 秘書広報課(内線251)

無料法律相談について

市で行っている無料法律相談は、予約6人、月2回となっていますが、今の時代に色々な問題を抱えている人が多く、少なからずの人が利用したいと考えていると思います。

もう少し利用しやすいように、月2回ではなく、毎週あるようにできないものでしょうか。

(鶏冠井町 50歳代女性)

無料法律相談は、平成10年度から月1回から月2回に拡大しました。また、月2回の困りごと相談には、不定期ではありますが、弁護士や公証人など法律の専門家に来ていただき、法律相談の機会の拡大に努めています。

その他、京都弁護士会や大学の法律相談部による無料法律相談なども開催しています。

近年、法律に関係するトラブルが増えてきていますので、今後も、無料法律相談の拡充とともに、近隣で行われる無料法律相談の情報提供にも努めていきます。

向日市から京阪電車への交通について

ある新聞の交通関係記事に、JR向日町駅と京阪がつながることが載っていました。

京阪への交通が時間がかかり困っていましたので、大変うれしく思っていました。その後何の音沙汰もなく、この計画はどうなってしまったのですか。

(上植野町 60歳代女性)

現在、京都市交通局の呼び掛けで、向日市、長岡京市、および阪急・京阪バス事業者をまじえた「京都南西部交通対策協議会」で、今後におけるこの地域の交通体系のあり方や東西鉄道軸を結ぶバス路線などについて、様々な角度から意見を出し合い協議しているところです。

しかし、京都市バスの運行(阪急バス代行)を受け入れるためには、道路事情や財政状況の問題など多くの課題が解消できていないので、実現するまでには時間が必要と考えています。

今後とも、市民の足の確保や利便性の向上にむけ取り組みを進めます。

点訳サークル「きつつき」の活用について

社会福祉協議会の登録ボランティアグループとして活動している点訳サークル「きつつき」の会員です。

発足以来11年が経ちますが、市の発行されたものの点訳依頼は、「障害者計画」のみと記憶しています。

最近では、パソコン点訳する会員も増えスピードも増し、部数も容易に作成することができ、いろいろなお手伝いをするのが可能になりました。

何かお手伝いさせてもらえることがあれば、点訳サークル「きつつき」に声をかけてもらえるよう、関係各課にお取りはからい願えば幸いです。

(上植野町 40歳代女性)

日頃から、点訳活動を通して、視覚障害者福祉の向上にご尽力をいただき、本当にありがとうございます。

お申し出の視覚障害者への情報提供につきましては、点訳サークル「きつつき」の活用も検討するよう指示いたしました。

市民FAX通信

あなたの声をお寄せください

テーマ

- 21世紀の夢ある事業
- 21世紀の地域づくり

FAX番号 922-6587

いきいき健康ウォーク賞について

対象者がだんだん多くなってきているのに、一人ずつ市長から表彰状を手渡して、他の出席者が拍手していく表彰スタイルを改善されてはどうでしょうか。

表彰式を簡略化して、到達地を紹介するビデオの上映や出席者同志で情報交換ができる時間をとらえてはいかがでしょうか。

(上植野町 60歳代男性)

健康ウォーク賞は、生きがいと健康づくりに着目した事業として、市民の多くの皆さんからご支持をいただき、大変喜んでいます。表彰式も回を重ねることに、表彰受賞者の数も増えてきており、表彰式の進め方や内容の見直しについて必要を感じています。

しかし、直接表彰状を手渡されることを楽しみにされている人も多くおられることから、アンケート等によりご意見をお聞きしながら、表彰式のあり方を模索していきたいと考えています。

また、表彰だけに重きを置くのではなく、参加者の情報交換や交流の場となるよう心がけていきたいと思います。

1月21日に行いました健康ウォーク賞の表彰式では、以前受賞された人には、その代表の人に表彰状を手渡す方法に代えました。